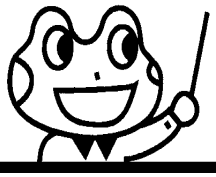
資料番号2844



化石はどうやってできるの

●生物の死がいが長い年月の間、地中にうまる

生物が死んでも、すべてが化石になることはありません。化石になるのは、ほんの少しのものだけです。それに、その生物の体全体がいつも化石になるとはかぎりません。ここでは、恐竜が死んでから、化石ができるまでのようすについて説明します。

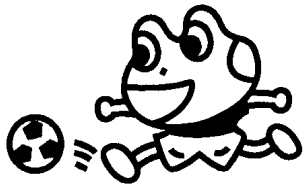
恐竜が大きな海や川で死ぬと、恐竜の体は水の底にしずみ、土砂をかぶってしまうことがあります。そして、海や川の流れがゆるやかな所では、恐竜の体は土砂の中でだんだんくさっていき、骨だけになります。さらに長い年月の間に、土砂がたくさんかぶさって、地中にうまったままになります。

●骨の成分が石の成分に置き変えられる

成分とは、その物をつくりあげている物質のことです。長い年月の間に、骨のカルシウムの成分が、石の成分に置き変えられて残っていきます。上からの土砂の圧力（物をおしつける力）や骨の成分が石の成分に置き変えられたりして、化石ができます。化石には骨のあとが残っていますが、その成分は石なのです。

●海や川の底が陸地になる

海や川の底でできた化石は、そのまま発見することはできません。大地のはたらきによって、海や川の底が陸地になることがあります。その陸地がいろいろな原因でくずれたり川の水にけずられたりした所で、化石を発見することがあります。（監修・国司　真）



無断複製：転載：翻訳を禁ず Gakken